# 祭りは心のよりどころ

塩見町からバイパスを通って行くと
左手の山に色彩鮮やかな5色の吹き流しが風を受けていた。
豊受神社の祭りだ。
神社では何人かの人たちが祭りのための飾り付けをしている。
ここを訪れる人々はそれぞれに、家内安全・無病息災・商売繁盛・豊漁・豊作などを祈願する。
祭りは人々の心のよりどころであり、ふるさとを感じる。

小高い丘の中腹に祭られた豊受大神宮。
細く曲がった道と急な階段を一歩一歩上り詰めると、そこには心のよりどころがある。

## 豊受（とようけ）大神宮

豊受大神宮は衣食住の神で、伊勢神宮を祭っています。
ここにいつごろ祭られたかは分かりませんが、もう100年以上は経っていると思います。
昔は、ニシンの大漁や豊作を祈願に多くの人々が訪れました。また、祭りになると子供からお年寄りが集まり、相撲大会を開いたりして、それはそれは賑やかでした。
時代は変わって、祭りの楽しみ方も変わってしまいましたが、祭りを通じて、それぞれがふるさとを思い、楽しむことができれば良いことと思います。
祭りは心のよりどころと思います。

野口　緑さん

緑に囲まれた豊受大神宮

潮風にたなびく五色の吹き流し

守り神として納められた狛犬は、昔、豊作を祈願した人が「土地に恵まれ大豊作になった。」と感謝の意を表して納められた。



# YOSAKOI・ソーラン るもい夕華衆

初の札幌出演を終えて感動したことは、踊り子が各会場で笑顔で、元気一杯に踊ってくれたこと。また、賛助会員の方々の力強い団結力で踊り子を支えてくれたことです。
YOSAKOIに参加したのは、昨年の本祭を見に行ったときに、若者のエネルギーの凄さを感じたからです。
留萌の若者にも、このエネルギーはあるはずだと思いました。
昔、ニシンで栄えた町、留萌からどうしても参加したいと思いました。
**祭りは見るものではなく参加するもの。**YOSAKOIは私にとって、祭りを見る立場から参加する立場に替えてくれたものです。皆さんも、考えているより体験して見てください。
留萌の町興しにつながっているかどうかは分かりません。生意気ですが、これからは、留萌の町興しにつなげていきたいと思います。この夕華衆を継続するためには、舞台裏を支えてくれる地元の方々の応援が必要なのです。そして、スタッフを増やすことで継続できると思います。
YOSAKOIは踊り子だけでなく、観ている人にも感動を与えることができるものだと思います。みんなで、一つのことに取り組むことから生まれる、連帯感や一体間の素晴らしさだと思います。市民の皆様、一人ひとりが何らかの形でYOSAKOIに関わりませんか。そうしたら、もっと新鮮な感動を得ることができると思います。
これからは管内のチームがまとまり、管内規模で開催していきたい。

原田　則子さん

今回、チームを結成するに当たり、何かを始めるということがとても大変なんだということを痛切に感じました。留萌で開催されている各種の祭りも、諸先輩のご苦労が良く分かりました。
夕華衆の踊りが見たいと言われれば、積極的に参加させていただきます。
今回YOSAKOIチームを結成するに当たり、いろいろな方々との出会いがあり、いろんな方々のお力添えがありました。この力をどれ一つ抜いても決して成功はしなかったと思います。
祭りを通して企画運営する人たちや参加する人たち、そして見る人たちが互いに感謝する気持ちを大切にしたい。
「一生懸命頑張ってくれてありがとう」の気持ちを、心のどこかで通じている祭りにしたい。

**鳴子**

もともとは田畑の鳥避けとして使用されていた。
使い方のコツは、鳴子を人差指と親指で軽く挟んで、腕をしのらせること。
本場・高知の鳴子を参考に「北海道独自の鳴子を作って見たい」という願いから、道産の鳴子「ナルキー」が誕生した。